

2015 年度（後期）指定公募

「市民の集い開催への助成」完了報告書

テーマ

「在宅医療」知ってますか？

家で最期まで療養したい人に。

申請者：小田直美

所属機関・職名：総合リハビリテーションセンター みどり病院
看護部長

所属機関所在地：新潟市中央区神道寺 2 丁目 5 番 1 号

提出年月日：2016 年 8 月 25 日

はじめに

厚労働省は、全国で認知症を患う人の数が2025年には700万人を超えるとの推計値を発表しています。2025年には65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患する計算となります。

佐渡市の人口動態をみると年々人口が減少、その反面高齢者の増加は著しく、今後、高齢者のひとり暮らし、高齢者のみ世帯や認知症高齢者数についても増加すると考えられています。今でも、すでに認知症が増加しており、親や配偶者の在宅介護に悩んでいる家族の声も聴いています。

町・村など、市民の近い場所で市民講座を開催し続けることで、多くの市民が認知症を正しく理解し、身近なこととして日頃から予防に取り組み、現在の治療方法や利用できる制度などを知ることができるようになる。そして、もし自分が認知症になったらどうしたいか、人生最期をどう生きていきたいかを今から周囲に伝えるようになることを期待しています。それが、いつか支えてくれる人への、思いやりでもあります。

そして、佐渡市が目指している“たとえ介護や支援が必要となっても、その人らしく住み慣れた地域において生活が維持できる”へと繋がっていくものと考えています。

公開講座開催

I 市民講座内容

1. プログラム

第一部 『認知症は不幸じゃない!!』

講師：橋本 薫 認知症ケア上級専門士 総合リハビリテーションセンター・みどり病院

第二部 『ひと味違う！ 認知症予防プログラムを体験しよう』

講師：苅谷 司 臨床美術士 総合リハビリテーションセンター・みどり病院

第三部 聞きたいこと、聞いてほしいことをおしゃべりしよう!!

2. 開催

第一回 日時：平成28年7月23日（土） 13：00～15：30

場所： 椎泊公民館

参加人数：23名



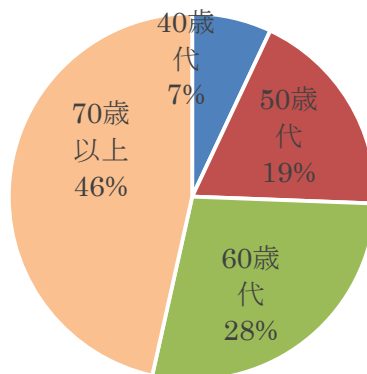
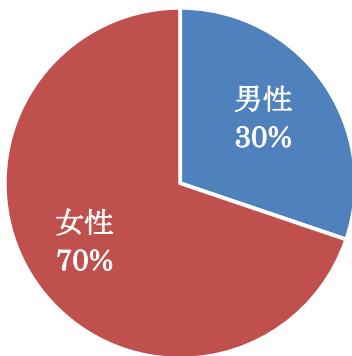


第二回 日時：平成 28 年 7 月 24 日（日） 10：00～12：30
場所：下大野集落センター 参加人数：30 名

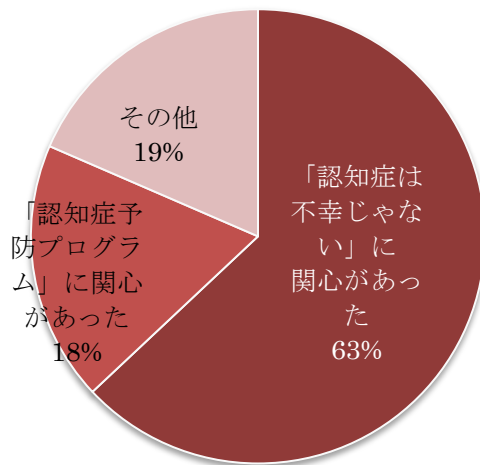


II アンケート結果 回答 45 枚

1. 参加者の年齢・性別 n=45

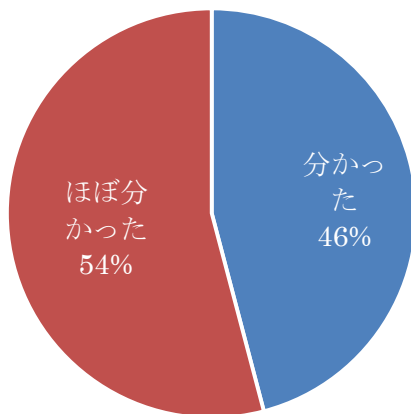


2. 今回参加しようと思った理由 n=45

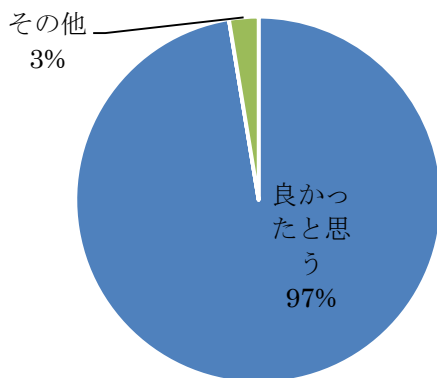


- ・ 認知症のことについてより深く知りたかった
- ・ 高齢者支援の企画をする参考にするため
- ・ 自分の将来のため
- ・ 姉が介護しているので心配なため

3. 認知症について理解できましたか。

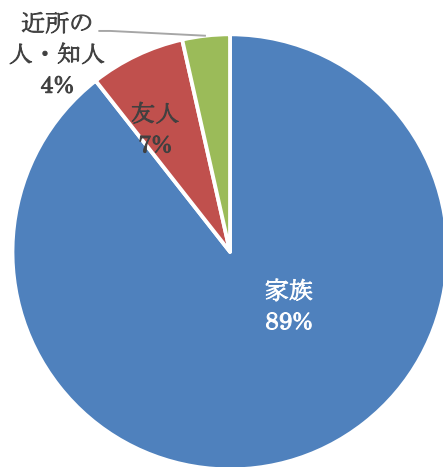


4. 「輝き！生き抜くために」講座を開催することについてについて



- ・ 定期的にやってほしい
- ・ 生き抜かなきゃね！
- ・ またお願いします
- ・ 普段から注意が大事！ に感じました

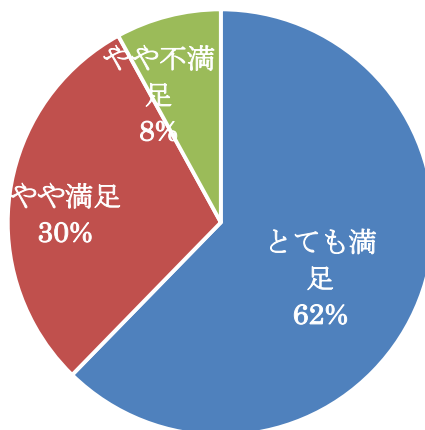
5. 自分の生や死、病気になった時のことなどを誰かに伝える機会がありますか



<伝えている内容>

- ・延命治療はしないでほしいと伝えている
- ・常日頃の生きざまを思い、確認していただきたい

6. 本日の講座に参加しての感想



- ・和やかな講座だった
- ・認知症が少し怖くなった
- ・絵を描くことに集中できた
- ・認知症予防プログラムは楽しみに塗り絵でした
- ・美術体験とても楽しかった。若年から取り組むとよいと思った

市民講座を終えての感想

今回は、佐渡の中央ではなく集落に入り市民講座を開催した。その為か参加人数が今までより多く、また顔見知りの方達で和やかムードの中、進行できました。

第一日目は両津湾内を一望できる標高 33m の両津椎泊地区にて実施し、会場 30 分前より 1 人また 1 人と来場、老若男女総勢男性 7 名含む 23 名の方の参加となりました。前半「認知症は不幸じゃない」講義に講師の質問に挙手したり時に笑ったり、真剣な表情がみられた。後半「ひと味違う！認知症予防プログラムを体験しよう」に、「何をやるのだろう？」「テストをやるのか？」「性格が分かるのか？」などと不安も見えたが、プログラムが進行するにつれて、参加者の表情も柔らかくなり隣同士で作品を見せ合ったりと、笑顔が見られるようになりました。全体的に海の色や香を感じられる作品となり、「高齢でも独居は無

く若い世代と同居している」と参加者の声がきかれ、家庭での役割や地域のまとまりを感じることができました。

二日目は、佐渡国仲新穂地区高台にて実施。参加される方々は、笑顔で会場にはいられ開始まで、会話が途切れる事が無く、地域の雰囲気の良い感じました。前半の講義では、テキストにペンを走らせる人や、一言一言にうなづく人と皆真剣に聞き入っていました。後半の開始当初は、「どうしたらいいのか」等の不安の声も聞かれたが、プログラムが進むにつれ作品に色が重なり、どなたの作品も、みどり豊かな「新穂」の風景（故郷）を想像させる素晴らしい作品となりました。地域では、「何か行事がある度に住民がまとまり参加されている」と、研修後にふるまわれたドジョウ汁に「地域の人の温かさ」と「地域力」団結力の強さを感じました。

二日間を通し、佐渡という「風土」や佐渡の中の「小さな地域」であっても、地域に関する活動に住民が助けあい協力し、一つのコミュニティーとして高齢者と共生することができていることを知った。また、「認知症・認知症予防」等に関してまだまだ知られておらず、新鮮に講義・プログラムを聞かれ実施する姿勢に「公民館」等の小規模単位で啓蒙活動する必要性を感じました。

この度、市民講座を開催するにあたり助成していただいた「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団」には、心からお礼申し上げます。